

第50回 エフエム伊東 番組審議委員会

議事録

会議場所

伊東ふれあいセンター 3階多目的ホール

日時

令和元年 9月30日
19:00~20:30

出席者

・水口進吾様 ・森田文明様 ・佐藤文彦様 ・渡邊将様 ・片山清香様
・平山智香子様 ・稲葉雅之様 ・小川嘉洋様 ・土屋由美子様

【議事】

- 代表取締役より挨拶、現状説明
- 審議委員、スタッフ自己紹介
- 新番組、その他活動状況の説明

- 委員より意見、質疑応答等

審議委員) 私の出演している番組を聞いている方は年配の方が多い。時計代わりに家事をしながら聞いていることが多い。市外の方からお声も直接頂いている。

審議委員) 台風15号通過時に何も聞く手段がない方、スマホを持っていない方へのケアができるといい。携帯にラジオ機能がない方もいるので、ラジオの普及が必要。

FM伊東) ラジオを持っていない市民が多い。ラジオの文化に触れていない方には、馴染がなく、気に留められることもない。スタジオが新しくなる計画があるので、緊急時に活用の幅が広いラジオを市内の家庭に普及させられればと考えている。

審議委員) 他人に勧めると、初めて知ったといった反応が多い。目につく所にこういった番組があるという情報を発信、告知していくことを優先すべきではないか。聞いてもらう「きっかけ作り」のための情報発信が必要だと思う。

審議委員) 開局当初に配布した76.3mhz固定のラジオは感度がいいので、それを普及させる事ができれば、より聞いてもらえるのでは。ラジオの周波数を合わせるのが大変という意見もある。いざという時にラジオをつければすぐに情報が収集できるのが望ましい。

FM伊東) 市内でエフエム伊東の電波が聞き取りにくい地域があるが、聞こえるラジオを作ってもらえるメーカーに問い合わせ、改善できないか取り組んでいる。

審議委員) 生放送が多く、番組ラインナップはいいと思う。再放送するだけでなくストックしてネット上で聞ける展開をすれば、リスナーにより聞いてもらえる。例えば、Youtubeのような誰でも触れる箇所への音声アップロードなど。

審議委員) サイマル放送、エフエム熱海湯河原とのクロストーク、新番組などの取組みはいい。生放送というのは、聞いてもらえればCM依頼などへのつながりになる。ラジオは、「ながら聞き」ができるツールであることを活かすなど、どうやって聞いてもらえるかを考えられるといいと思う。

FM伊東) ネット、SNSなどでの発信はしているが、ラジオを聞いてもらえる「きっかけ」にならない。聞いてもらえる「きっかけ作り」をして行きたい。

FM伊東) 道路看板を増設し、“76.3mhz”を市内の方に認識してもらうよう進めている。
代表取締役 現在7枚設置しており、数をより増やすことを計画している。また、伊豆新聞でも番組表を掲載している。災害時だけでなく、平常時に聞いてもらえるようにしたいと考えている。

審議委員) 県外からの問い合わせの実績は？

FM伊東) リクエストやメッセージ、CM依頼が以前に比べて入るようになった。直近では、神奈川県小田原市の医療機関より依頼があった。

審議委員) 7～8年前の車購入時はラジオをチューニングしてくれていた。自分は車で聞いているが、一番組聞き終わると聴取地域を出てしまう。
 ラジオを娯楽とするか、情報発信とするか、「ながら聞き」ができることが強みを活かすことだと思う。仕事中だからこそ聞けるという売り込みをしたらいいと思う。高齢者が増えた事業所が多くなっている。高齢の年齢層が楽しめる番組作りをしていければいいのでは。災害時は重要な情報源であるので、市民全員が、“76.3mhz”を知ってもらう為の努力は続けなければならない。
 好きな番組をチョイスして聞くといい聞き方をしてもらえるようになれば、それもいいのかと思う。

審議委員) 番組の構成の決め方は？

FM伊東) 委員のご意見を踏まえて改編・作成をしている。スタッフの打ち合わせだけで変更することはしていない。基本的には、春と秋の年2回に番組改編をすることにして
代表取締役 いる。

審議委員) 「自宅にラジオの電波が入らない」、「選曲が新しすぎて面白くない」、「1950年から60年ころの洋楽がいい」という知人の意見を聞いた。「1日ごとに選曲を統一して放送したらいい」という意見もあった。

審議委員) 私はサイマルで聞くようにしている。エフエム伊東からアクションがあった時に聞くことが多い。「ながら聞き」が多いので、こういったものを放送するなどの連絡を直接もらえると聞くきっかけになる。仕事をしている方にとっては、なかなか聞く機会がない。災害時に電気が止まって、情報を収集できない時に情報提供をする事ができないか。また、エフエムで聞くことができるという行動を起こす方法がないか。ようやく手に入れた情報でも断片的かつ部分的で、自分に必要な情報が手に入らない。

FM伊東) 千葉のかずさFMがニュースで取り上げており、「市民の方にこういった情報を提供すべきなのかわからなく困った」ということを言っていた。
 リスナーからの情報は真偽の確認ができない。安易に情報を発信することができないので、企業や行政からもらった情報を放送するしかない。

審議委員) 現場の方と電話をつないで実際の声を放送することはいいこと。

審議委員) 現場に中継スタッフを送る人員の余裕がないのか？

FM伊東) そういったことも理由としてある。

審議委員) 市民有志のリポーターを設けたりすることはできないのか？

FM伊東) 「地域防災パートナー」というものを考えている。
代表取締役 地域の企業や団体などに声をかけて、進めて行くことを検討している。

審議委員) 番組の内容が充実してきた。パーソナリティのスキルも上がってきたと感じている。関係者が告知をして行くなどで知人・友人へと輪を一人ずつ広げていければと思う。サイマル放送で聞けるようになったことは素晴らしい。
(季刊紙「なぎさ通信」の記事を見て) ベリカードの存在は知らなかった。コレクションする方がいるのであればそういうツールを活用する事もいいのではないか。市議会議員選挙の生中継は良かった。会場に足を運ぶことができない人にはいい。国際交流協会のチラシにQRコードを掲載した、こういった紙媒体に掲載を進める事もいい。道路看板にQRコードを貼ってみたらどうか？
昼間放送した番組を夜間に再放送することができたら、昼間聞けない方に昼間の情報を伝えることができるのではないか。

●その他質問・意見

審議委員) 番組を作ったりする必要があるのか？世界には曲を流しているだけの局があり、緊急時だけは緊急放送を入れる。自分は他のツールを使っているので、市内の情報はエフエム伊東から取得することはない。特化したものを特集して流す、生放送が多ければ多いだけいいというものはどうなのか？ラジオに替わるツールはいくらでもあるので、番組を充実させるよりかはコストをかけずに全く違った角度からの展開方法もあるのではないか。都市部のラジオパーソナリティと技量としては遜色ないと感じるが、CM等の製作技術には、多少差を感じる。

審議委員) 伊東にFM局があることを知ってもらうことが大事。
特化した内容で番組を作ったらどうか。若年層向けの放送をして曜日や時間を特化して取組むことも必要なのではないか。
高校生などが番組作りなどに取組むこともよいのではないか。

審議委員) できない理由は？

FM伊東) 時間的制約、担当するスタッフ、費用などの制約があり思い通りにならない。

審議委員) 工夫することで、そういった問題を解消しながらできないのか？

FM伊東) サントムーン柿田川のイベントで公開放送をしたりした。

代表取締役

FM伊東) ふじの広場での「ITO MARUSH」で屋外の放送ができるようにしたいが、機材の不足などあり対応しきれない。

審議委員) (番組の)「夢ヶ丘高校放送部」とはなに？

FM伊東) アニメ「あまんちゅ」の内容に特化した番組であった。
フィルムコミッションを始めたこともあり、もう少し間口を幅広くした番組内容にしている。

審議委員) 曲を流す制限はあるのか？

FM伊東) 流す曲数の制限はないが、音源を持っているかどうかということになる。

FM伊東) 会社の再生が進み、ようやく会社として始動できるようになった状況であり、経営の面でも設備の面でも多少落ち着いてきた。次のステップとして番組の充実を図り始めたという状態。

代表取締役

アンテナの移設等を今後考えていきたい。
本日は遅くまでありがとうございました。

以上